

iPS創薬基盤開発チーム

iPSC-based Drug Discovery and Development Team

バイオリソース関連研究プログラム

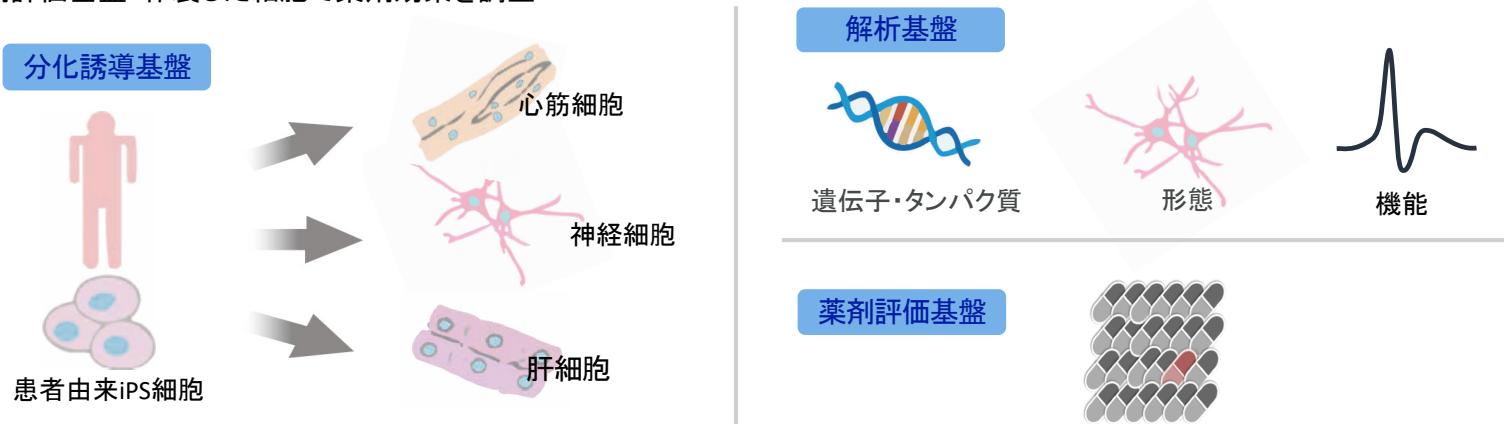


理研BRC疾患特異的iPS細胞の創薬基盤への利活用の促進 ～バイオリソースiPS細胞の利活用研究例～

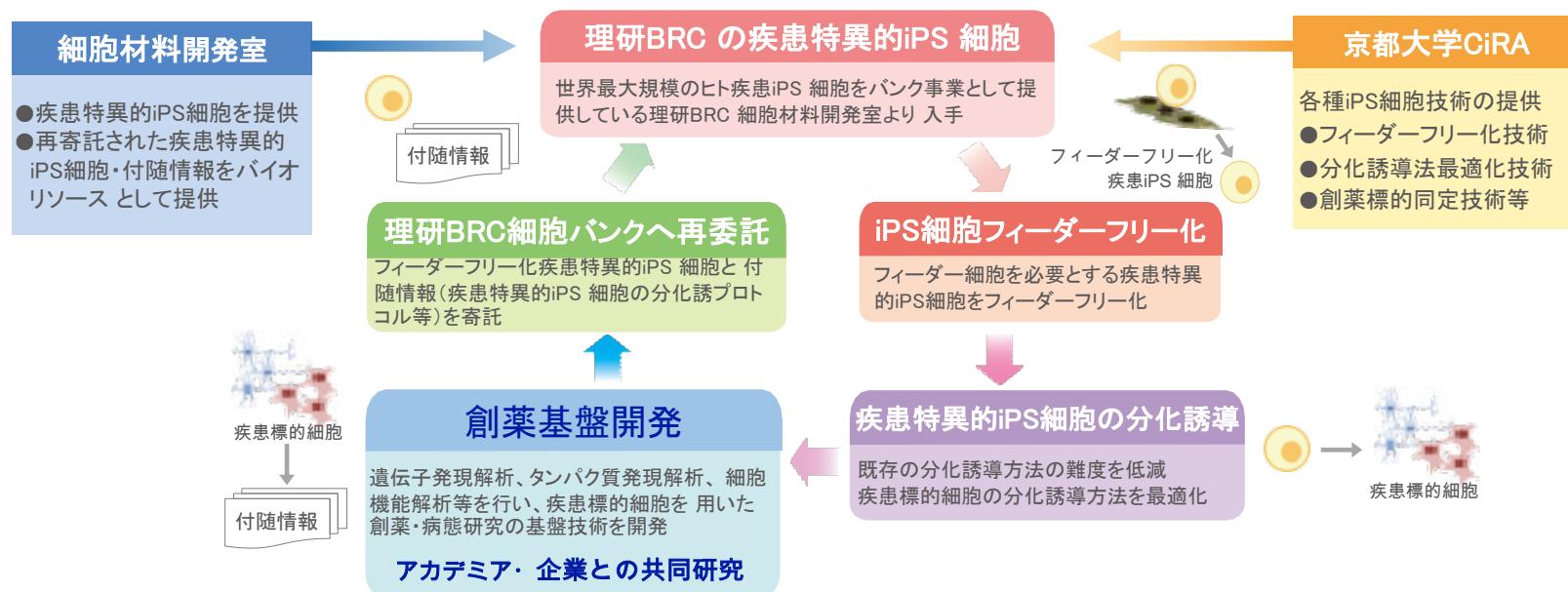
理研BRCでは、様々な疾患の患者さんから樹立された疾患特異的iPS細胞をバイオリソースとして提供しています。疾患特異的iPS細胞を利活用することで、培養皿で疾患病態を再現し、疾患メカニズム解明・創薬開発を加速すると期待されています。当チームでは、理研BRCの世界最大規模の疾患特異的iPS細胞バンクの疾患特異的iPS細胞から、様々な器官の細胞を作成し、解析する方法を確立して来ました。疾患細胞の遺伝子発現、タンパク質発現、細胞機能などを解析し、病態解明・創薬開発のための基盤技術を開発しています。

BRC疾患特異的iPS細胞を利活用した創薬に向けた基盤開発研究

- 分化誘導基盤: 患者由来iPS細胞から様々な細胞を作製
- 解析基盤: 作製した細胞の病態を解析
- 薬剤評価基盤: 作製した細胞で薬剤効果を調査



■ オープンラボ形式で企業・大学等と連携して研究を加速



チームリーダー 井上治久

1992年京都大学医学部卒業、同大附属病院等で神経内科医として診療にあたる。国立精神・神経センター、ペイチ医科大学、理化学研究所脳科学総合研究センター、ハーバード大学医学部などを経て、2005年京都、大学大学院医学研究科助教、2009年京都大学iPS細胞研究センター特定拠点准教授、CREST研究代表、2014年京都大学iPS細胞研究所教授、日本医療研究開発機構 (AMED) の疾患特異的iPS細胞を活用した難病研究プロジェクト拠点長、読売ゴールドメダル受賞、2017年理化学研究所BRC創薬細胞基盤開発チームチームリーダー(兼任)。Editorial Board of Molecular and Cellular Neuroscience。